

2024 年度第 1 回日本脊椎脊髄病学会・日本側弯症学会合同社会保険等システム検討委員会
(議事録)

日時：2024 年 3 月 6 日 (水) 18:00~18:40

場所：Web

出席依頼者 (敬称略)

JSSR (担当理事) 大鳥 (副委員長) 遠藤 (委員) 赤澤 酒井義人 鈴木 辻 平泉 牧渡邊 (外保連委員会) 手術：平井、坂井；実務：鈴木、牧、松倉；検査：坂井；内視鏡：高野；処置：平井、松倉；麻酔：牧

(アドバイザー) 青田 山縣 細金

側弯症 手術：金子、八木、実務：井上、宮城、処置：酒井大輔、検査：酒井大輔、麻酔：宮城・八木

出席者 (敬称略・順不同)：大鳥 (担当理事)、平井 (委員長)、遠藤 (副委員長)、青田、山縣、平泉、細金、鈴木、酒井大輔、井上、渡邊、八木、辻、金子、高野、坂井、神崎、赤澤、牧、松倉

・理事会報告

大鳥担当理事より、今回は当委員会に係る報告事項がないとのコメントを頂いた。

・令和 6 年度改定結果 (ご担当の先生)

新設

- **腰椎固定術 (ロボット支援)** 共同提案 日本整形外科学会 (赤澤先生)
- **脊椎側弯症手術 固定術 (ロボット支援)** 共同提案 日本側弯症学会 (赤澤先生)
今回の改定では、残念ながら採択されなかった。今後よりエビデンスを蓄積していく方針。

改正 (優先順位の順番)

- **K142-5 内視鏡下椎弓形成術の複数椎間加算** 共同提案 日本整形外科学会 (高野先生)
- **K142-5 内視鏡下椎間板摘出(切除)術、内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎弓形成術 (通則 14 の追加)** 共同提案 日本整形外科学 (高野先生)
- **K134-4 椎間板内酵素注入療法** 共同提案 日本 IVR 学会 日本ペインクリニック学会 (平井先生)

- 脊椎複数回手術後癒着剥離術加算（辻崇先生）
- 椎間板酵素注入療法に対する施行医師技術の適応拡大 主学会日本ペインクリニック学会 共同提案 日本 IVR 学会、日本脊椎脊髄病学会
- 超音波凝固切開装置等加算の脊椎前方手術への適応拡大（現状、胸・腹腔鏡下手術・悪性腫瘍に係る手術、バセドウ甲状腺全摘）（牧先生）
- K939 3 画像等手術支援加算 患者適合型支援ガイドに脊椎手術を追加
- K142-5 内視鏡下椎弓形成術の複数椎間加算
- K142-5 内視鏡下椎間板摘出(切除)術、内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎弓形成術（通則 14 の追加）
 の 2 点については採択される見込み。但し前者は厚労省から通知が出たが、後者の通則 14 の追加に関しては、厚労省から通知がまだ出ていないため確認が必要。頸椎人工椎間板置換術と前方固定術の併用加算について緊急要望を出す可能性があり、厚労省からの通知の有無を注視していく。

・令和 8 年度改訂に向けてアンケート結果

39名より回答

- 新規
 - ✓ ロボット手術(頚椎含める)3件
 - ✓ PETLIF/KLIF2件
 - ✓ 変形矯正VCR1件
 - ✓ 小児脊椎加算1件
 - ✓ 空洞症に対するSSバイパス術1件

- 改正
 - ✓ 再手術加算7件
 - ✓ 頭蓋頚椎移行部加算5件
 - ✓ 顕微鏡下椎弓形成術複数椎間加算2件
 - ✓ 椎間板内酵素注入療法の技術料増点2件
 - ✓ 黄色靭帯骨化症手術の複数椎間加算1件
 - ✓ 内視鏡下椎弓形成術複数椎間加算 1件
 - ✓ 脊髄腫瘍摘出硬膜形成加算1件

- 償還要望
 - ✓ エアドリルバー多数
 - ✓ マイクロカバー
 - ✓ 放射線防護手袋
 - ✓ 硬膜閉鎖の被覆材
 - ✓ 内視鏡手術時のバイポーラー
 - ✓ メイフィールドピン

以上のアンケート結果の共有。

今までこのアンケート結果に上がっているものの一部や、他椎体形成+後方固定の椎体形成部分の手技料評価などについて検討も当委員会で行ってきた。その経緯など含め委員内で意見交換を行った。

主な議論 2 点あり、

• BKP と除圧を同一範囲内 (ex..L1BKP+T12/L1 開窓) に行う場合の加算をとれるようにすべき。

• 長範囲固定で骨切り加算を作るべき(こちらは以前青田委員長の時代に八木委員が骨切りと骨切りでない変形矯正の質の高い比較エビデンスを探したが、なかったため採択されなかった経緯があった)。

最終的どの項目を次期改定で採択を目指すかは、今回不採択となった項目やアンケート結果にあるものを中心に、委員内でメールにて意見を交わし審議を行うこととなった。

• K コード整理について

K コードの整理 (同術式内の手術部位ごとへの整理) を R 8 年度に向けて行うことが、

1/17の中医協総会で正式に発表された。今まで当委員会の平泉委員・平井委員長を中心に進めていた。今後、雑然と整列しているKコードを部位別に精緻化し、その上で適正な点数の提案を行っていく必要がある。このKコードの整理について、当委員会での検討を引き続き行っていくこととなった。

• **くも膜下モルヒネ髄注療法について**

整形外科、脳外科、麻酔科の関連学会と合同で、適正使用ガイドラインや保険適応の検討を行っていく必要がある。当社保委員会としては、今後保険適応について関わる可能性があり、引き続き状況を注視していく方針。

• **今後の予定**

次回定例会（例年は5月）は、JSSR 本会后、新委員での開催予定であり JSSR 本会后に日時を検討する方針。